

【概要版】仙台市学校教育情報化推進計画（令和5～9年度）

■ 第1章 計画の策定について

P.1

○計画の趣旨等

児童生徒が資質・能力を最大限に伸ばすことにより、これからの社会を生き抜く力を身に付けることができるよう、教育の情報化の更なる推進を図ることを目的として「仙台市学校教育情報化推進計画」を策定します。

本計画は、「学校教育の情報化の推進に関する法律」に基づく国の「学校教育情報化推進計画」等を踏まえたものであり、令和4年3月に定めた「仙台市学校教育の情報化推進方針（令和4～6年度）」を発展的に継承するものです。

○学校教育の情報化推進と関連する本市の計画等

・「仙台市実施計画」（令和3年度～令和5年度）

施策：挑戦する力を育てる学び推進 → ICT教育推進事業 等

・「仙台市教育構想2021」

基本方針Ⅰ 夢と希望を持ち、自らの可能性に挑戦する力を育てる学校教育
→ ICT教育の推進 等

○計画の実施期間

本計画の期間は、令和5年度から令和9年度の5年間とします。

※ICTを取り巻く環境の変化を踏まえ、必要に応じて3年後を目途に見直し

■ 第2章 学校教育の情報化推進における国・宮城県の動向

P.4

(1) 平成29・30・31年改訂学習指導要領

情報活用能力が学習の基盤となる資質・能力の一つとして位置付けられ、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図ることや主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進することなどが示されました。

(2) GIGAスクール構想の実現（令和元年12月、文部科学省）

1人1台端末や高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことない、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現することが示されました。

(3) 「令和の日本型学校教育」の実現を目指して（令和3年1月、中教審答申）

これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、ICTは必要不可欠なものであり、1人1台端末等の環境を生かし、端末を日常的に活用していく必要があるという考え方が基本とされました。

(4) 教育データの利活用ロードマップ（令和4年1月、デジタル庁、総務省等）

教育のデジタル化のミッションを「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会」と掲げ、そのデジタルを手段として、学習者主体の教育への転換や教職員が子どもたちと向き合える環境を整えるための論点や工程表を示しています。

(5) 「第3期みやぎの教育情報化推進計画」（令和4年3月、宮城県教育委員会）

「変化する時代を生きる子供たちに力を育む学びの実現」を目標として掲げ、その目標を達成するための7つの「基本方向」が示されました。

(6) 学校教育情報化推進計画（令和4年12月、文部科学省）

学校教育情報化の現状と課題に対応するため、4つの基本的な方針を定め、その方針を実現するための個別の施策が整理されました。

■ 第3章 学校教育の情報化推進における基本的な考え方

P.6

本計画においては、国の「学校教育情報化推進計画」を踏まえるとともに、「仙台市学校教育の情報化推進方針（令和4～6年度）」の考え方を継承し、以下のとおり基本的な考え方を整理します。

「これからの社会を、たくましくしなやかに生き抜く力を育む」
～子どもたちが主体的に学び取るために～

(1) 情報活用能力の育成

○これからの高度に発展した情報化社会を、「たくましく」「しなやかに」生きるために、必要な資質・能力としての情報活用能力を育成します。

(2) 学びに向かう力と、豊かな創造性の育成

○自らの学習を調整しながら粘り強く取り組む態度を育成し、多様な学びで児童生徒に豊かな創造性を育みます。

(3) 学校における働き方改革の推進

○学校の情報化を推進し、教員が児童生徒一人ひとりに向き合える環境づくりを進めます。

基本方針1

児童生徒が、ICTを適切に使いこなし、生涯学び続けるための資質・能力の育成

基本方針2

教員のICT活用指導力を高めるための支援体制の充実

基本方針3

ICTを活用するための環境整備

基本方針4

学校情報化の推進とICT活用の推進体制構築

■ 第4章 学校教育の情報化に関する本市の取組の現状と課題

P.10

本市における教育の情報化を推進するための、4つの基本方針とその現状と課題

基本方針		現状	課題
1	児童生徒が、ICTを適切に使いこなし、生涯学び続けるための資質・能力の育成 P.10	・ICTの日常的な活用 ・情報活用能力育成の年間指導計画の作成 等 P.10	・情報活用能力の育成 ・指導・学習のためのICT活用 ・学びを保障するためのICT活用 P.11
2	教員のICT活用指導力を高めるための支援体制の充実 P.11	・基本的な操作及び授業での活用のための研修を実施 等 P.11	・教員に求められるICT活用指導力等の向上 P.11
3	ICTを活用するための環境整備 P.12	・学術情報ネットワーク（SINET）を活用した高速通信環境の実現 等 P.12	・安全・安心なICT環境の構築 P.12
4	学校情報化の推進とICT活用の推進体制構築 P.13	・校務支援システムの運用 ・仙台市GIGAスクール推進協議会の設置 等 P.13	・校務の情報化の推進 ・教育の情報化に関する推進体制 P.13

基本方針1

児童生徒が、ICTを適切に使いこなし、生涯学び続けるための資質・能力の育成

【取組1】情報活用能力の育成

P.14

- (個別施策)
 ①カリキュラム・マネジメントによる体系的な育成 ②プログラミング教育の推進
 ③学校・家庭・地域における情報モラル教育・情報セキュリティ教育の推進

【取組2】指導・学習のためのICT活用

- (個別施策)
 ①個別最適な学びの推進 ②協働的な学びの推進 ③探究的な学びの推進
 ④デジタル教科書・副読本の活用 ⑤先端技術の活用
 ⑥ICT活用における健康面への配慮

【取組3】学びを保障するためのICT活用

- (個別施策)
 ①災害時等に学びを継続するためのICT活用 ②多様なニーズに対応するためのICT活用
 ③特別支援教育におけるICT活用

基本方針3

ICTを活用するための環境整備

【取組】安全・安心なICT環境の構築

P.19

- (個別施策)
 ①1人1台端末等活用のための環境整備
 ・SINETの活用などによる安定した通信環境の整備
 ・1人1台端末の次回更新時における整備方針の検討
 ・デジタル教科書等のソフトウェアの整備 等
 ②デジタル教材等の整備
 ・MEXCBTの利活用推進 等
 ③教育データの利活用、教育DXの推進
 ④個人情報の保護等
 ⑤著作権への対応

基本方針2

教員のICT活用指導力を高めるための支援体制の充実

【取組】教員に求められるICT活用指導力等の向上

P.18

- (個別施策)
 ①教員の資質の向上
 ・教員のICT活用指導力と研修 ・ミドルリーダー養成研修 等
 ②人材の確保等
 ・高校の情報科への対応 ・教育実習生へのICT活用推進 等
 ③ICT支援員などの人的支援
 ・ICT支援員の効果的利活用方法の周知及び今後の在り方検討
 ・GIGAスクール端末運用業務ヘルプデスクの運用 等

基本方針4

学校情報化の推進とICT活用の推進体制構築

【取組1】学校の情報化の推進

P.21

- (個別施策)
 ①情報化による校務効率化
 ・校務支援システムの利活用推進 ・クラウドを利用した働き方改革の推進 等
 【取組2】教育の情報化に関する推進体制
 (個別施策)
 ①学習の継続的な支援等のための体制の整備 ②調査研究及び情報発信
 ③地域、大学や民間事業者等との連携 ④市民の理解と関心を高める取組

分類	評価指標	現状値	目標値
児童生徒の情報活用能力の状況	小学校3年、6年、中学校3年時の「情報活用能力に対する児童生徒の意識調査」において、各項目（A：活動スキル、B：探究スキル、C：プログラミング、D：情報モラル）の回答が、肯定的な回答になっている児童生徒の割合	P.24をご参照ください。	A～Cいずれの項目も概ね90%以上 Dいずれの項目も概ね100%
	小学校：校種間の連携を考慮して、全学年でのプログラミング教育を実施している学校の割合 中学校：校種間の連携を考慮して、教科等横断的にプログラミング教育を実施している学校の割合	令和4年度 小学校 89.0% 中学校 81.3%	概ね100%
教員のICT活用指導力の状況	文部科学省「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」における教員のICT活用指導力の大項目A～Dにおいて、「できる・ややできる」のように肯定的な回答をした教員の割合 ※A：教材研究・指導の準備・評価・校務などのICTを活用する能力 B：授業にICTを活用して指導する能力 C：児童生徒のICT活用を指導する能力 D：情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力	令和3年度 A 85.8% B 71.6% C 76.9% D 88.6%	いずれの項目も概ね90%以上
環境整備の効果状況	学習履歴（スタディ・ログ）をはじめとした様々な教育データを、児童生徒の指導に活用している学校の割合	令和4年度 40.1%	概ね100%
仙台市の取組についての理解の状況	仙台市の学校教育の情報化に関する取組について、保護者等の認知の割合	令和4年度 84.3%	概ね100%

(参考資料)

用語集

行	用語	意味
カ	学習履歴 (スタディ・ログ)	個人ごとの学習等に関する記録やデータの総称 (例: 学習記録、成果物の記録、成績・評価情報など)
	クラウド	機材やソフトウェア、処理性能、記憶領域、ファイル、データなど何らかの計算資源をインターネットなどの通信ネットワークを通じて提供し、利用者がいつでもどこからでも必要なときに必要なだけ資源にアクセスできるようなサービスの総称。
	校務支援システム	学籍管理や成績管理、保健管理、出席管理等を行えるシステム。
ハ	プログラミング教育	「プログラミング的思考」(どのように組み合わせるとより意図した活動に近づくのかといったことを論理的に考えていく力)を育むため、児童生徒がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動。
マ	ミドルリーダー	学校のキーパーソンとして、管理職や同僚教職員とともに、学校の組織を活性化する役割を担う中堅教職員。
英	MEXCBT (メクビット)	MEXT (文部科学省) + CBT (Computer Based Testingの略。コンピュータを利用して実施する試験方式のこと。)の略。児童生徒が学校や家庭において、国や地方自治体等の公的機関が作成した問題を活用し、学習やアセスメントができるシステムとして文部科学省が開発を進めている「学びの保障オンライン学習システム」。
	SINET (サイネット)	Science Information NETworkの略。日本全国の大学、研究機関等の学術情報基盤として、国立情報学研究所が構築、運用している情報通信ネットワーク。本市では、教育委員会のデータセンターとSINETを接続し、各学校の学習系ネットワークからSINETを経由してインターネットに接続できるようにし、地域の大学等との連携・共同研究を強化しつつ、高速大容量のインターネット接続環境を構築している。